

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 20 日作成)

委員会名	温暖化対策評価小委員会	主 査 名：下田吉之
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地球温暖化に対する建築分野の対策を整理し、各対策の評価を行うことを目的とする。具体的には建築分野における対策を生活対策、業務対策、都市対策、資源関連対策、適応策に分類し、それぞれについてとりまとめる。	
委員構成 (委員名 (所属))	下田吉之 (大阪大学)、三浦秀一 (東北芸術工科大学)、外岡豊 (埼玉大学)、大崎仁 (日建設計)、金子千秋 (鹿島)、鈴木靖文 (ひのでやエコライフ研究所)、田頭直人 (電力中央研究所)、田中俊彦 (東京電力)、外崎真理雄 (森林総合研究所)、中野幸夫 (電力中央研究所)、永田敬博 (東京ガス)、依田浩敏 (近畿大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	生活対策 WG 住宅および家庭生活における温暖化対策の評価 業務対策 WG 業務用建物における温暖化対策の評価	
2004 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	6 月 2 4 日 (9 人)、8 月 4 日 (8 人)、1 0 月 1 5 日 (1 0 人)、1 2 月 2 0 日 (6 人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>生活対策では県別・エネルギー種類・熱用途・建て方別エネルギー消費量・温室効果ガス排出量詳細推計を実施(生活対策 WG)するとともに都市レベル住宅エネルギー最終需要モデルを構築。また、委員会において家庭の省エネルギー診断、家庭用ルームエアコンの省エネルギー基準の問題点について話題提供を受けた。業務対策(業務対策 WG)では建物用途・エネルギー種類・熱用途・県政令市別エネルギー消費量・温室効果ガス排出量推計と各種対策削減効果評価を実施するとともに、温暖化対策としての BEMS(建物エネルギーマネージメント)の有効性と問題点について話題提供を受けた。生活・業務の両者にまたがる市民エネルギー調査会モデル・温暖化ガスインベントリについて検討。都市対策では環境理想都市構想を検討。森林吸収策では森林伐採の温暖化効果評価方法検討。適応策では地球温暖化、ヒートアイランド現象に対する建築分野の適応策を検討。上記成果より現在「建築分野における地球温暖化対策リスト」を作成中である。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本委員会の目的は極めて広範であるが、上記目的に掲げた 5 つの分野それぞれについて検討が着実に進んでおり、十分な成果があったと考えている。5 つの対策それぞれについて一応のとりまとめを上記「建築分野における地球温暖化対策リスト」の形でとりまとめ、その後大会研究協議会等での発表や出版などを考えていきたい。</p>
その他評価すべき事項	村上周三慶応大学教授が IPCC 第 4 次報告書において建築分野の温暖化対策に関する Lead Author に就任したことに伴う国内 WG(Contributing Author)に本小委員会メンバーの一部が参加している。